



柏市消費者教育推進連絡会とは

- ◇目的◇ 柏市の学校における消費者教育の推進
- ◇委員◇ 教育委員会職員，小，中，高等学校の教員
- ◇庶務◇ 消費生活センター
- ◇活動内容◇ 年3回の会議（研修会を含む），「消費者教育の視点を持った授業」の実践と事例集の発行



1月31日（火）柏市立柏第三中学校を会場にして，本年度最終となる連絡会を開催しました。内田教育研究所長（座長），深野消費者教育担当指導主事からのお話の後，家庭科教諭，生田委員による「消費者教育の視点を持った授業」実践と研究協議会を行いました。

研究協議会では，会場校の渡邊校長先生から，映画「旅の重さ」で吉田拓郎が歌う主題歌を例に，「賢い消費者，主体的な消費者として『わたしにはわたしの生き方がある』とは，正しい知識を得た上で初めて言えることでしょうか。『自らの消費，自らの生き方を知る』という視点で，学校での消費者教育が推進されることに期待します」と，ご挨拶をしていただきました。

次期学習指導要領と消費者教育・・・教育研究所 内田所長（座長）

消費者教育は，習得した知識，技能を社会生活の中で活用する力を育てるとともに，よりよい社会作りに参画しようとする消費者の育成を目指しています。学校での消費者教育は，教科や学年を超えて体系的に行われることが期待されています。次期学習指導要領が打ち出そうとしている「アクティブ・ラーニング」，「カリキュラム・マネジメント」の視点は，消費者教育とリンクする部分が多く，本連絡会委員の取り組みは，そのまま次期学習指導要領に乗せていけるものであると考えています。

教科も学年も超えて…先生の一言が消費者教育です・・・深野消費者教育担当指導主事

1時間の消費者教育を実施するのは大変だという声がありますが，「消費者教育の視点」さえ押さえれば，授業の一部でも，先生の一言でも，消費者教育になります。本日の生田委員の授業実践のように「地域の活性化，環境への配慮（地産地消）」「伝統文化の伝承（郷土料理）」といった複数の消費者教育の視点を一つの授業に持ち込むことも可能です。また，授業で使用された資料「千葉県の旬の食材一覧」からは，幾とおりもの活用法が考えられ，消費者教育教材が教科も学年も越えて活用できると気付くことができました。

1月～2月に実践された「消費者教育の視点を持った授業」

家庭科／地域の食材とその料理（21／26時間） 柏第三中学校 生田史恵教諭



<本時の学習活動>

地域の食材を利用したオリジナルな「芋けんちん」の調理実習計画を立てる。

<消費者教育の視点>

○地産地消を実践することで食の安全を保ち、輸送にかかるコストを減らすことで環境にも優しい取り組みになる。
○積極的に地域の食材を取り入れることで、地域の活性化につなげることができる。

←【写真】農産物直売所の「ネイモ」等、旬の野菜を紹介中です。

社会科／わたしたちの暮らしと日本国憲法（6／6時間） 高田小学校 澤田堂樹教諭



<本時の学習活動>

憲法は誰のために、何のためにあるのだろうか。前時で作成した憲法アイコンを発表し合ったり、1／6時に学んだユニバーサルデザインの物を通して考える。

<消費者教育の視点>

○憲法が平和な社会の形成や自分の生活や権利を保障していることを考える。

←【写真】身近なユニバーサル商品の数々を紹介中です。

生活単元学習／グッジョブ！（4／5時間） 柏第六小学校 竹内祥子教諭



<本時の学習活動>

校内教職員の協力を得て、実際に仕事をし、その対価として給料をもらい、そのお金で物を買うという一連の流れを行う。

<消費者教育の視点>

○自ら稼いだお金で適切な消費生活を送る力を育む。

←【写真】仕事の手順書を使い、一つずつ手順を確認中です。

家庭科／じょうずに使おう お金と物（3／4時間） 富勢小学校 眞田英里子教諭



<本時の学習活動>

家族や親戚の人に出すお菓子を500円以内で購入する場面を設定し、実際に数種類のお菓子を吟味して選択する。

また、その理由について話し合う。

<消費者教育の視点>

○品質や価格などの情報を活用し、目的にあった品物の選び方について考えたり工夫したりする。学んだことを日常生活の中で実践できるようにする。

←【写真】画像を使い、買い物の場面を設定中です。

☆平成28年度及び平成29年度の委員による授業は「実践事例集VI」にまとめ、平成29年度の2月又は3月頃、各学校に配付する予定です。